

「鬼様」といわれる

三遠南信の鬼

三遠南信地域は、民俗芸能の宝庫である。国指定の重要無形民俗文化財『湯立て神楽』・『田楽』をはじめ、豊川・天竜川水系には、多くの民俗芸能が残っている。

民俗芸能の「鬼」を三遠南信地域の人たちは、親しみをこめて「鬼様」と呼ぶ。悪の化身、追い払われる存在の「鬼」を、なぜ「鬼様」というのか？

三遠南信の鬼を見てみよう。



『花祭』の「桺鬼」



天竜水系の祭地図



新野『雪祭』の「鬼」伊東直幸氏撮影



左：遠山・木沢『霜月祭』の「天伯」
右：天龍村・坂部『冬祭』の「タイキ」
このページの写真（新野「雪祭」以外）・地図：三隅治雄著『華麗に神々舞う里』新葉社刊





安久美神戸神明社の鬼祭：『鬼祭パンフレット』より

三遠南信の鬼①豊橋

鬼といえば、豊橋では国の重要無形民俗文化財に指定されている鬼祭の「鬼」。

安久美神戸神明社の鬼祭は「追儼」の形式が色濃く残っている。除魔を視覚化し、追われて逃げる鬼がまくタンキリ飴は無病息災厄除けをもたらすという。

しかし、鬼祭以外にも、豊橋には鬼の登場する祭がある。



石巻神社「赤鬼」小林信廣氏撮影

石巻神社の鬼・「ヘンベエ」する鬼

豊橋市内唯一の式内社「石巻神社」。春の大祭に赤と黒の鬼が登場する。退魔の「ヘンベエ」をし、参会者にタンキリ飴と粉をまく。鬼のまいたタンキリ飴を食べると夏病みしないという。

石巻神社の鬼は、悪霊から神を守る鬼という。しかし現在は、タンキリ飴や粉の霊力で病気や災いから人を守る鬼といわれている。



長楽正八幡社「黒鬼」松重康浩氏撮影

りという。タンキリ飴も粉も投げる。玉川校区の高井正八幡社・太田神社の鬼も同様である。

石巻・玉川の鬼の変容・鬼は賀茂神社にも

石巻・玉川の鬼は「追われる鬼」ではない。夏病み防止用のタンキリ飴を投げ与える。鬼に子供を抱いてもらおうと丈夫に育つという。悪霊から神を守る鬼が、災厄から人間を守る善き鬼へと変容した。

豊橋には、他に賀茂神社・長瀬素盞鳴神社（大村校区）・下条素盞鳴神社にも鬼が登場する。

豊根村から移住した人たちが伝えた幸校区の御幸神社花祭にも、鬼がいる。

祭は、安久美神戸神明社の鬼祭をまねたとも、安久美神戸神明社がまねたともいう。

ながら

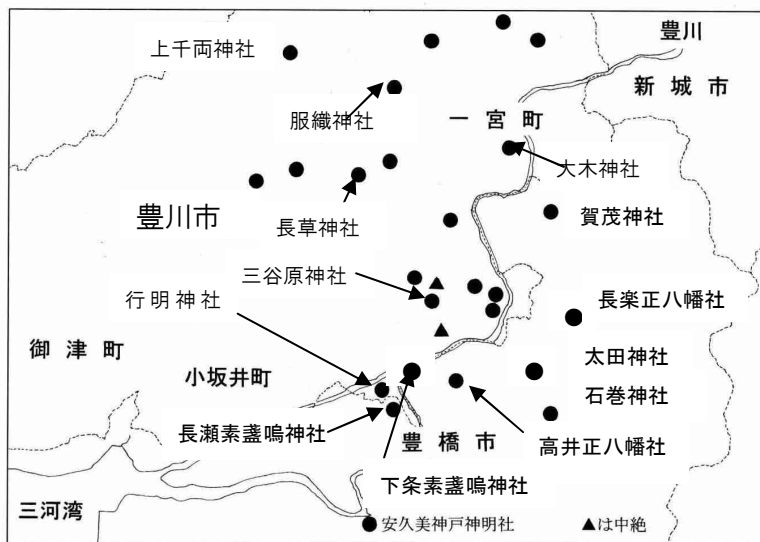
長楽正八幡社(玉川校区)の鬼

石巻神社の近くに長楽地区がある。

石巻神社の子鬼の面を長楽に譲り渡したのが、長楽正八幡社の春祭の鬼の始まり



賀茂神社「藤四郎」山本瑛一氏提供
昔は和菓子をまいたが今は袋に入っている。



「豊川下流域の鬼の出る祭」山崎一司著『鬼の受容と展開』

三遠南信の鬼②豊川

豊川下流域には、鬼の登場する祭が多く残っている。(左図参照) 鬼の祭新旧を紹介する。



上・三谷原神社のお菓子を渡す鬼
下「オンビ」を持つ行明神社の鬼
山崎一司著『鬼の受容と展開』
新編豊川市史編集委員会編『新編豊川市史』豊川市刊

みやはら 三谷原神社(豊川市三谷原町)の鬼

春祭に、赤鬼と青鬼が登場する。各戸に背負ってきた袋からお菓子を出し渡す。廻る途中に出会った氏子にもお菓子を渡す。しかし、最初からお菓子ではなかった。

近くの^{ぎょうめい}行明神社の鬼をまねて、昭和13年から祭に登場した。当初は、タンキリ 飴や粉を投げて廻ったが、戦後はお菓子を配るようになった。

祭を盛り上げるために氏子を喜ばす鬼たちである。

はとり 服織神社(豊川市一宮町足山田)の鬼・修験の影



上：服織神社の鬼
山崎一司著『鬼の受容と展開』
右：上千両神社の鬼
新編豊川市史編集委員会編
『新編豊川市史』豊川市刊

服織神社の鬼は、赤・黄・青鬼である。1 mぐらいの青竹の先に「オンビ」を振り回し、参会者を祓う。

「^{はら}祓う」ことは、けがれ・災いから身を清めることである。祭最終の「餅投げ」



オンビ

は、災いから守られ作物の豊作を願う修験の呪術的行為である。

「オンビ」を持つ鬼は、一宮町大木の^{すさのお}進雄神社・^{ちぎり}千両町の上千両神社など、本宮山麓の神社に登場する。本宮山は「三河国一宮・砥鹿神社」の祖霊がある。古くから信仰の山・修験道修行の山であった。



オンビ



長草素盞鳴神社の鬼：新編豊川市史編集委員会編『新編豊川市史』豊川市刊



釜を割ろうとする「山見鬼」山本宏務氏撮影

り切れるか。焼畑中心だった山間部の人たちは、飢えと寒さに不安を覚えた。

太陽は、農作物の生長に欠かせない。このままでは死んでしまう。何とかして太陽の勢いを再び呼び覚ましたい。来年こそよき実りの年たれ。神よ、わが村に幸を与えたまえ。生への願いが全国津々浦々から神々を呼び寄せ、接待し、幸を約束させる。

この祭りに大活躍するのが「鬼」たちである。

山見鬼・生まれ清まり

花祭で、大切な鬼は「山見鬼」^{やまみおに}「榊鬼」^{さかきおに}「朝鬼」である。

マサカリを持つ「山見鬼」は、死と再生をつかさどる。浄土(白山)へ導いた人間を、釜(山)を割り、この世によみがえらせる。衰えゆく太陽の力の復活と、人間の命の復活・厄おとし「生まれ清まり」を表現している。



「朝鬼」山本宏務氏撮影

三遠南信の鬼③

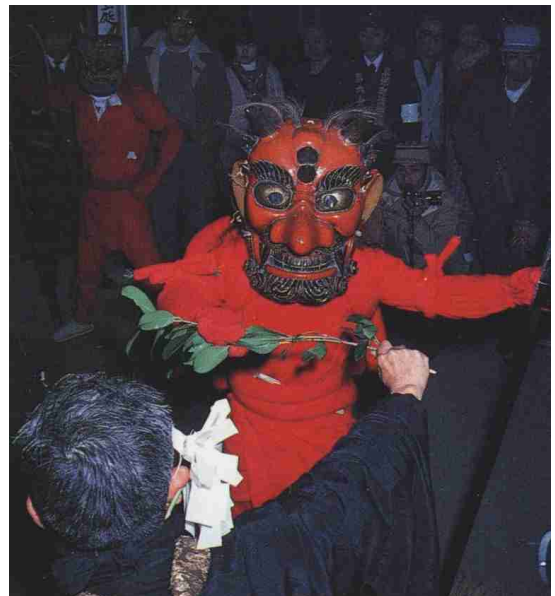
『花祭』・『大神楽』

三遠南信地域では、湯を神々に献じ、湯で穢^{けが}れをはらう湯立て神楽の祭がある。

愛知県奥三河では『花祭』・『大神楽』。遠州では『花の舞』。南信州では旧暦11月の別名「霜月」をとり『霜月祭』と言われている。国の重要無形民俗文化財に指定されている。

弱まっていく太陽への恐怖・希望を！

11月…。冬至に近づくにつれ太陽の力が衰えていく。食糧は足りるか。正月を越せるか。冬を乗り



「榊鬼」山本宏務氏撮影

榊鬼・生まれ清まりの「ヘンベエ」

「榊鬼」は、花祭の目的「生まれ清まり」を確実にするための呪術「ヘンベエ」を踏む唯一の鬼である。故に、花祭のシンボルとなっている。

「榊鬼」は、人が住む以前の「山の主」^{ぬし}と言われ、「山の主」の持つ力で豊穡を分けてもらおうとした。

朝鬼(茂吉鬼)・人に最後の祝福を与える「鬼様」

「朝鬼」は、祭りの最終近く朝方に登場する。「茂吉鬼」ともいう。「山見鬼」「榊鬼」も再登場。人々に祝福を与えて終わる。

祝福を与える故に、どの鬼も「鬼様」と慕われている。

三遠南信の鬼④『霜月祭』

『霜月祭』のうち、伊那谷天龍村坂部の霜月祭は、折口信夫氏によって『冬祭』と命名。毎年1月4日から5日にかけて行われる。

遠山郷の霜月祭は、11月～12月に行われる。

遠山・程野『霜月祭』の「四面土王」三隅治雄氏撮影
『華麗に神々舞う里』新葉社刊



坂部『冬祭』の「タイキリ」

遠山郷の鬼

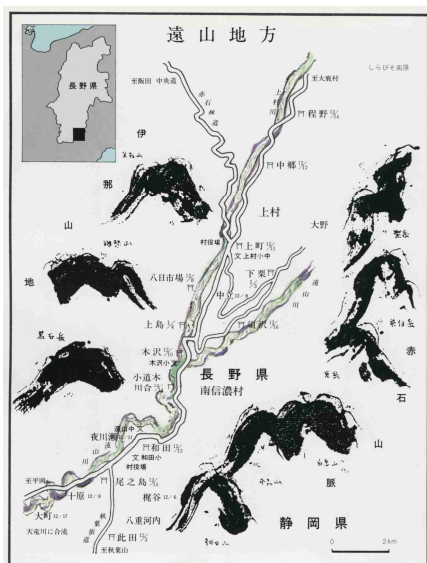


遠山郷和田（現飯田市）では、領主であった遠山氏の慰霊が始まりとされる。全体の面形がどことなくさみしげである。

同じ遠山郷のうちでも、程野・上村・木沢・下栗などは、強い鬼たちである。強い鬼の力を借りて、災いの退散を願った。



遠山・下栗『霜月祭』の「天伯」焼畑農耕の神という。三隅治雄氏撮影
『華麗に神々舞う里』新葉社刊



遠山地方図：天竜川は、県境近くになると、山脈にはさまれV字谷の間を流れる。落人の里・隠れ里といわれる村が点在する。
宮本辰雄著『霜月まつり』信濃教育会刊

五穀豊穰・長寿延命

湯を立て神々に献上し、霜月の弱った太陽の復活を願うのは、住んでいる土地の豊かな実りであり、病から守られる幸であった。そのためにくり返しくり返し湯立てが行われ、神々を接待する。

途中、参加者が肩を組み「カーヤセ、カヤセ、清メテ返セ」の大合唱。「生まれ清まり」、生命の蘇生を願う。

遠州『花の舞』

『花の舞』は、浜松市天竜区に残っている。鬼面の重みで村の吉凶を占う。



天龍区川合の『花の舞』仲井政弘氏撮影

三遠南信の鬼⑤『三河田楽』

米の豊作を願った『田楽』は、正月の修正会・修二会の行事であった。

『田楽』は、鎌倉・南北朝期に地方に伝えられ、盛んになった。

『田楽』は、『田遊び』・『おこない(実際に稲作の様子を行うので)』などとも言われる。新しい年を迎え、田植えから収穫まで長期間の加護を願う神事である。田楽にも「鬼」がいる。



豊作への切実な祈り

天変地異がいつ来るか分からない。環境に対応できなければ、飢餓や死が待っている。新しい年を迎え田植えの前に、秋の豊穰をあらかじめ祝う祭りである。予祝^{よしゆく}なればこそ、禍^{わざわい}に悟られないよう豊穰の意味が隠されている。所作やことばに注意したい。

国の重要無形民俗文化財の三遠南信の『田楽』は、奥三河『三河田楽』・信州新野^{にいの}『雪祭』・遠州『ひよんどり』と『おくない』がある。

鬼の役目・ヘンベエを踏む

『黒倉田楽』(設楽町)は、東栄町小林地区より花祭の形式を取り入れた田楽である。27演目中、最後の一つ前26番目が「三鬼の舞」。田楽は、クライマックスを迎える。

鬼は3匹。最初の鬼は所作のあと「ヘンベエ」を踏む。続いて2番目、3番目の鬼が登場。3匹の鬼は、舞いなが

ら焚き火をはねて、邪気を払う。

「ヘンベエ」は、花祭りの悪霊封じ

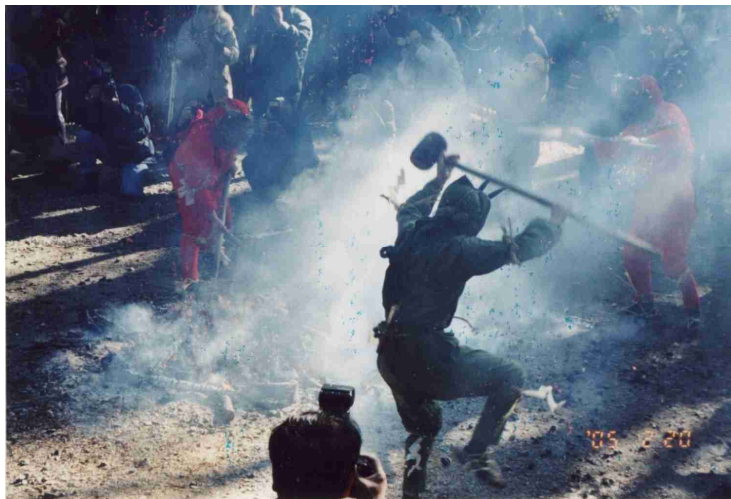
込めの呪術を取り入れた。秋の実りを願い、農作物に仇するものを封じ込めるのである。

各地に残っている田楽

今年こそ実り多い年になるよう、腹いっぱい^{あわひえ}の食事を食べられる幸の確約を予祝する『田楽』。山間地では稲作用耕地の確保が難しい。生きるため粟・稗・そばなどの収穫に頼っていた。村ごと、多少の違いはあるが、『田楽』は重要な行事であった。



『鳳来寺田楽』山本宏務氏撮影 始まりは鳳来寺山守護の3鬼慰霊から



『黒倉田楽』仲井政弘氏撮影



三遠南信の鬼⑥

新野『雪祭』

新野（長野県阿南町）の田楽は、折口信夫氏によって『雪祭』と命名された。なぜ雪か？

祭の主役は「雪」。雪を神前に備え豊作を祈る。雪が多いほどその年は豊作という。即ち、雪を豊作の予兆と見る呪術である。

悪霊退散の鬼・「鬼様負けてお帰りだ」

馬形をつけて舞う「競馬」^{きょうまん}は、鬼の持つ的を射る。五穀豊穡の願いをこめた弓神事である。

稲の豊作を祈願したあと、「天狗」が登場する。「鬼」舞ともいい、3匹の鬼が斧・槌^{おのつち}を打ち合う。禰宜との問答に負けて、すごすごと帰る。この時「鬼様、負けてお帰りだ」と会衆は、はやし立てる。新野の鬼は、角がない。怖い天狗（鬼）ではなく、ユーモラスな面形に親しみをこめて言うのである。

遠州『ひよんどり』と『おくない』

同じ田楽でも、遠州地域では『ひよんどり』『おくない』という。田楽の演目に火を使う舞があるので『ひよんどり』、苗作



寺野『ひよんどり』の鬼
切絵：上嶋裕志氏作



上：寺野『ひよんどり』鬼の舞
右：川名『ひよんどり』タイトボシ
共に鈴木一記氏撮影

りから収穫まで「おこなう」ので『おくない』という。稲の豊穡を予祝し、豊作を確かなものにする祭りである。

人の誕生と稲作の豊穡をかけ、お腹の大きな「孕み早乙女」^{はらさおとめ}が田んぼで出産する場面は、圧巻である。ここにも「鬼」が登場する。

寺野『ひよんどり』は、「鬼の舞」でクライマックスを迎える。赤・青・黒3匹の鬼が斧を持ち「ホッ！ホッ！」の掛け声を発しながら、勇壮に、しかも激しく舞う。最後は、



たいまつ^{たいまつ}の火を乱打する。

鬼の持つ強力な霊力を借り、作物に仇する悪霊を追い払

い、豊かな実りを願う。